



# あだっこ新聞

2  
号

2022・05・10・THU

1年：1名  
3年：2名  
6年：2名  
計：5名

安田小学校 発刊  
校長 田仲浩美

新学期もひと月過ぎて、2号線では、クイナのさえずりが多く聞こえるようになりました。4月から慌ただしく、体験的な行事が多く入っていました。本来であれば、「新しい環境にも慣れ学校生活も軌道に乗るところである。」としたいものですが、体調を崩しやすい季節でもあります、保護者の皆様におかれましてもコロナ禍、ご自愛しながら、本校の教育活動にご協力をお願いします。

ちょっと、  
あんなこと・こんなこと

4月26日  
こいのぼり集会



みんなでこいのぼりを運動場フェンスにまごい、ひごい、吹き流しを設置しました。2号線から学校に入るときのこいのぼりの迫力ある姿に感動です。この日は、男子の二人と男子職員からこいのぼりについて調べて来たことを発表してもらい学びました。



2校時から「あだあは集合学習」を行いました。春の遠足ではじめて、出会った1年生達にとっては、緊張しながら、一緒のお勉強！給食まで頑張りました。



安波小学校の兵道かりなさんと担任の輿儀先生も一緒にじゃんけんクイズをしました。  
算数は、楽しかった。

56年生は、調理実習を行いました。  
野菜炒めとスクランブルエッグが・・・・。

体し学最後  
をた習後  
動後でに  
かげすみ  
しー。ん  
まム自な  
しを己で  
た。紹体  
た介育  
後をの



4月28日は、復帰50周年、記念行事「与論町・国頭村交流会」を6年生の荻るりなさん、安次嶺連さんが参加しました。5月15日は復帰記念日、その前に4月28日には、沖縄には50年前に深く、気づいた一日がありました。

※1952年4月28日にサンフランシスコ講和条約が発効してから28日で70年となった。敗戦後、連合国軍の占領下にあった日本は条約発効で独立を果たしたが、沖縄や奄美は日本から切り離された。沖縄が日本復帰するまで米施政権下にあった27年間、本土から沖縄へ基地が移転。日本国憲法が適用されず、人権が蹂躪（じゅうりん）された。過重な基地負担など現在の沖縄差別の源流ともなったこの日は「屈辱の日」と呼ばれる。

しかし、この日を恨み辛みで迎えるのではなく、この子達がこの日を大切に「結いの日」と考えて平和な日本のこれからを、未来を考える良い機会となる事を願っています。「5月15日」は、知っていたけれど、27年間の歴史があってこそだといううのを考えた日としたいモノです。



与論島には、るりなさんがあゆ先生と一緒に行つてきました。熱き思いは、国頭村よりもありました。

28日午後7時両村町でともされたかがり火は、高く熱く燃えていました。少しだけど辺戸岬のかがり火が見えました。



漣さんは、国頭村で与論町の12人と宜名真港から茅うぶらんを登り辺土まで2時間歩き、当時の方々の思いを抱いて式典、かがり火までのセレモニーを。



## 5月の主な行事

GW 1日～8日まで

- 9日：令和3年度会計監査
- 10日：夏野菜畑 社長手入れ始まり
- 11日：奥小学校にて3校合同学習 14時下校
- 12日：お話朝会「人生のあいうえお」校長
- 13日：PTA総会 18時～
- 17日：スクールカウンセラー来校
- 18日：「RBCラジオ」みんなの作文収録
- 20日：村つながり部会(新垣・PTA会長)はなこ千夏出張
- 23日：「RBCラジオ」みんなの作文放送
- 24日：特別日課：職員村研修『世界自然遺産』
- 25日：3校合同ブラッシング指導(安波小)
- 26日：読み聞かせ(町田先生)

13日には、安田小学校のPTA総会が開かれます。地域の皆様に支えられて学校の教育が成されていきます。お忙しいとは思いますがどうぞ、今後の安田小学校の子ども達のために足をお運び下さい。

校長のひとこと・・・伝えます

人生の「あいうえお」

人生を切り開くには、運がある  
「運」の次に「縁」があり、

縁でつながり、  
「運」の前には、「意識」が働く。

人生豊にするために全集中する  
「意識」の前に「愛」があり、

意識することの喜びこそが愛となる  
「縁」の次には、「恩」がある。

縁を感じ愛を忘れず  
「恩」の後ろには、「感謝」がある。  
感謝する心を常にありたい